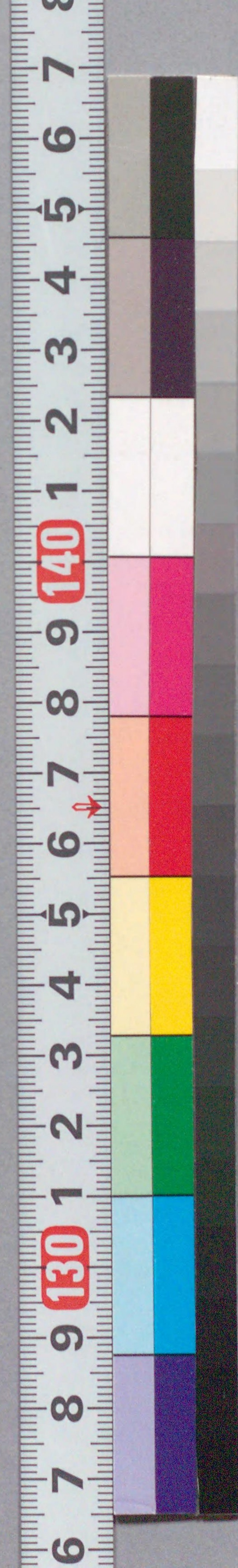


武者合天狗俳諧

207
392



武者合天狗俳諧

207
392

定以丸



此石の字様は
御一語をうとて早し
此通し
文化二世
正月吉日



らめ
み先らりや世もゆるなる
輪のもと

すしをの
さめ

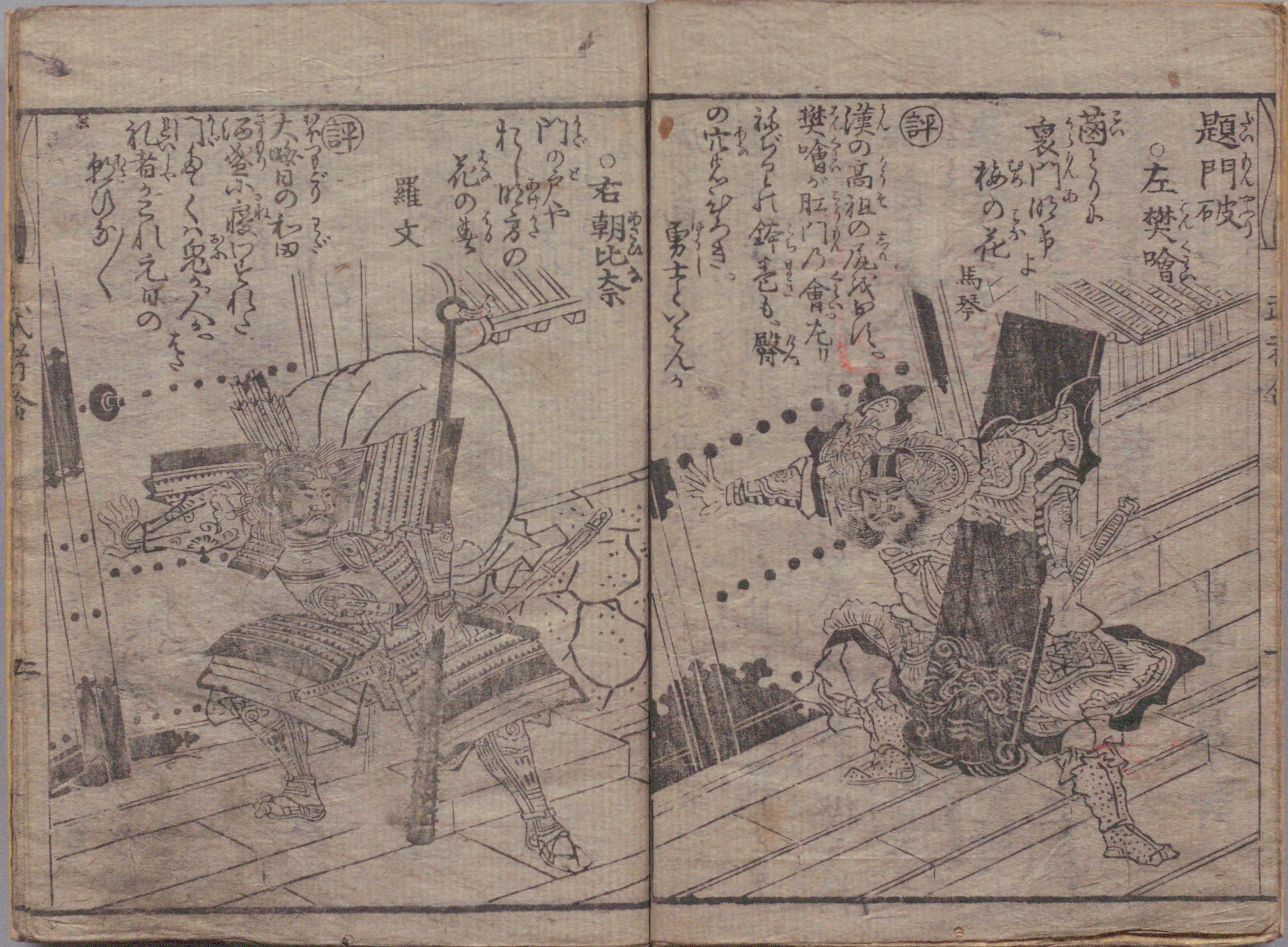
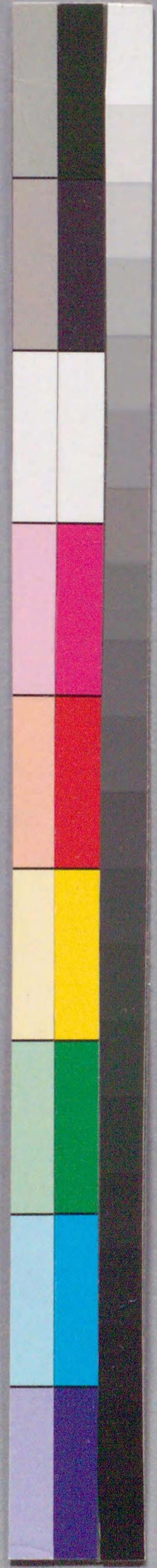
虎と画く猫と類を画工の不調宝月と書てのよ讀
唐様の不通用形等とのをも其品大に異なら
茲小執筆徳齋子圖をも所の武者繪其形似さ
撰目と武者合天狗俳諧との他元も高慢の
鼻甚と高と故小新古の發句と加へ余小其評と
乞ふ是も又虎と画く猫と類と角と切て牛と殺
と類ひきんと其趣と序と

丁巳の春

曲亭馬琴評

武者合









評
 借金の例えは
 その浪涛のまんら
 細言一けんか
 吾家これ代物の
 うつれも難刀身
 素浪人よわらん

吾山の
 三ツの目
 右知盛



評
 狼のいづく
 木の影
 左鯨坂

題薙刀
 左鯨坂
 蓼太

武者合

武者合



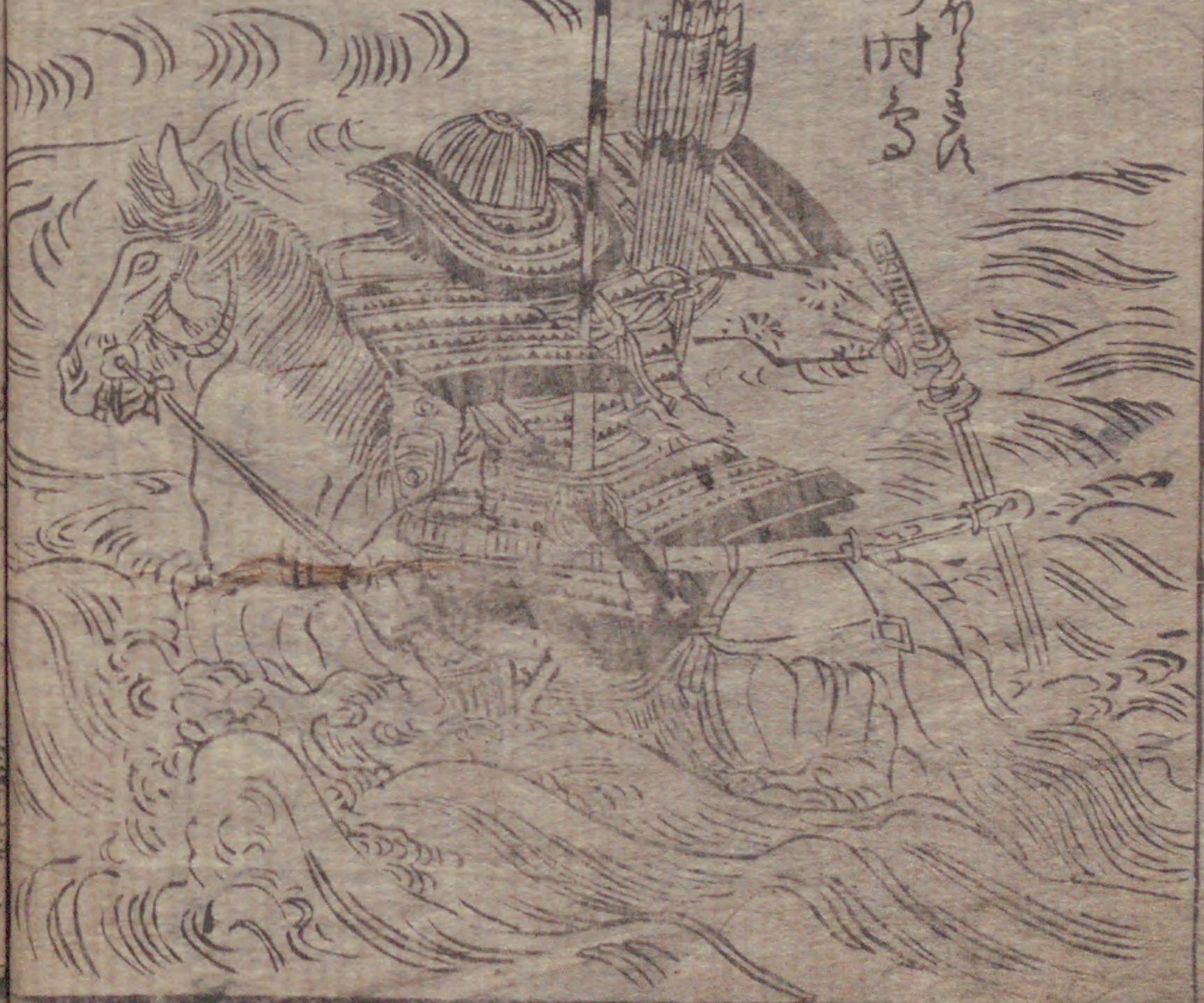


題先陣

左佐木四郎
飛出んまの都の時

去来

評
右田原又太郎の
陣の
宗因



右田原又太郎
陣の
宗因

評
右田原又太郎の
陣の
宗因



右田原



題弓勢

左六孫王經基

照村山 羅文

評
工於梯の
返魂余
鉄炮舖
毛小
又給
鉄炮舖
毛小
又給
鉄炮舖
毛小
又給



右源三位

頼政

面倒
おけよ

評
引て
引の
猿
馬
引



6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

武者合

題 孤子

左楠正行

後や持の云

たせ成

評

戦國み時成知系

情時いきなり

そのいせ。歌も

おやけり。子もあくと

ふれ。あつ

さびしうあハ



右箱王丸

く川午や人

たの急げ。能 不知作者

評

十年の松風

梅り天の山程子

うささ成疎く

川流の相

馬相

馬相



武者合

6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

題雷神

左管唾相

雷千おとすま
招ゆーぬりく南

馬琴

評

生る耐は後梅の
長くあり。死するは
風流の神とれる
上は在りしも世の
あつてふおれり
白なるるれ自在の神



右新田義興

稲妻や石臼耳よ

あしきまじり
露言

評

中の町は夕暮よ。
めりけりてを
裂けはるも
強ひおめよわらる
るれ手田の
たきとらぬ



武者合



和國
小説

忠義大星水滸傳

山東菴主人著 五冊

此書ハ傀儡の謡曲假名手本忠臣義と據りて
大承記は本邦の事多し水滸傳は倣し忠臣義より多し
貞女の趣と切よき事あり清安寺の假名手本の
本なり

略解千字文

一冊

素讀のちこころとよきことしこころと要に記す

画本二十四孝

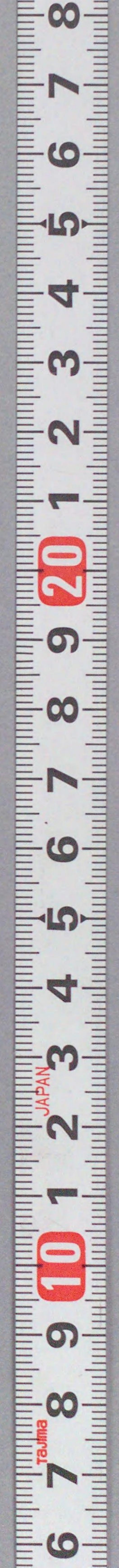
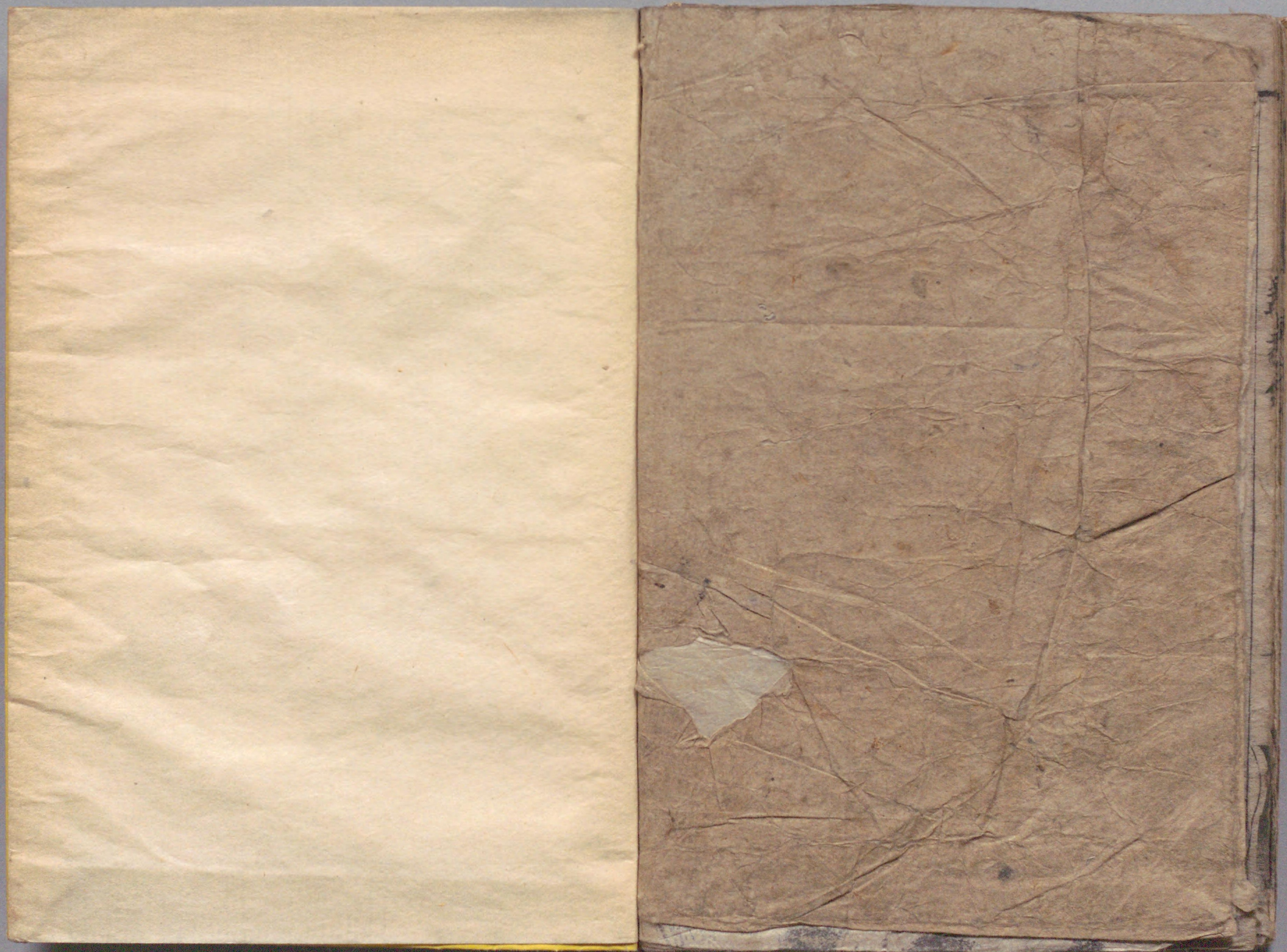
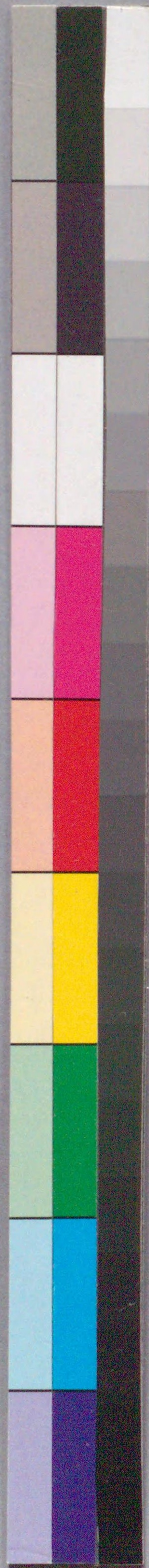
三冊

世間流布の廿四孝はひしよの事多し
はる唐本と翻刻ししはる事多し
こころとよきことしこころと要に記す

繪本多経志美州

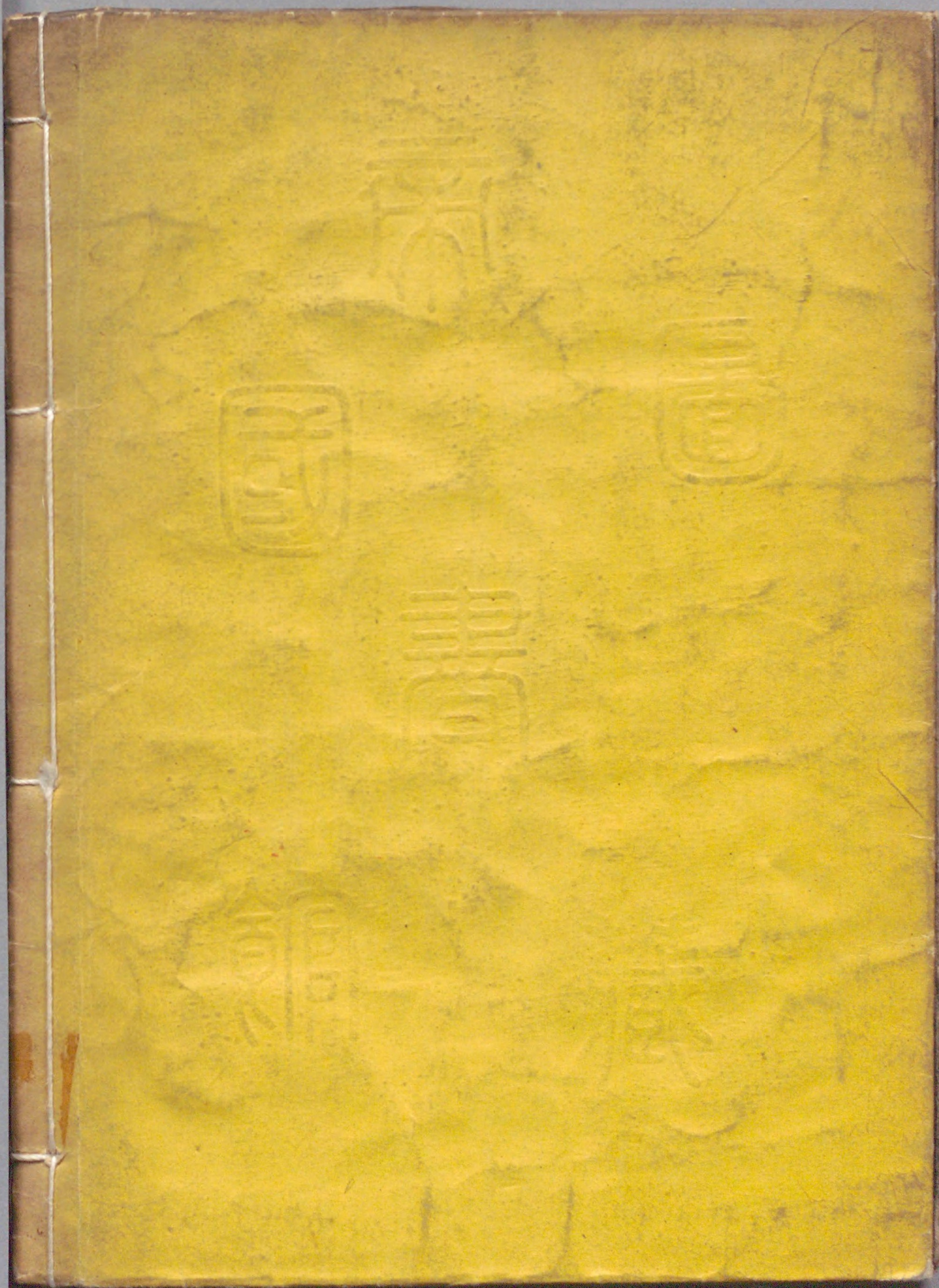
三冊





国立国会図書館 武者合天狗俳諧 : 2巻 207-392

ガラス使用



国立国会図書館 武者合天狗俳諧 : 2巻 207-392

ガラス使用

